

部
外
秘

昭和十二年

福井縣統計書

第一編

(土地及戶口等)

福井縣

緒 言

福井縣統計書ハ明治十四年刊行ヲ以テ嚆矢トナシ爾來縣下行政、經濟、其ノ他、各般ノ統計ヲ蒐集シ既往現在ノ文化ノ狀勢ヲ大觀セムガ爲毎年之ヲ刊行シ今ヤ昭和十二年統計書ノ編纂ヲ以テ第五十七回ノ記録ヲ重ヌルニ至レリ。本書編ヲ分ツニ其ノ一ヲ「土地戸口等」其ノ二ヲ「學事」其ノ三ヲ「産業」其ノ四ヲ「警察衛生等」ト爲ス。各編ニ收録スル資料ハ主トシテ市町村及學校警察署ノ報告及廳内ノ調査ニ依リ或ハ關係官公署、會社等ノ供給ニ求メタルモノ尠シトセズ。蓋シ世運ノ推移、學術ノ進展ニ伴ヒ統計ノ用途愈々多キヲ加ヘ來タルニ鑑ミ益々調査ノ正確ヲ期スルト共ニ其ノ表章方法ニモ漸次之ガ改善ヲ加ヘタルモ尙遺憾ナキヲ保セサルモノハ更ニ檢討ヲ爲シ時世ノ要求ニ應ゼシムル所アラムトス。

昭和十四年三月

福井縣總務部

昭和十二年福井縣統計書 第一編

凡 例

本編ハ昭和十二年又ハ昭和十二年度ノ事項ヲ掲載シタルモノナリ、然レトモ其ノ以後ノ事項ニシテ調査ヲ了ヘタルモノハ之ヲ掲載シ又己ムヲ得ザルモノハ昭和十二年若ハ昭和十二年以前ノモノヲ掲ゲタルモノアリ。

編中何年度ト記スルモノハ其ノ年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一箇年度、何年末ト記スルモノハ其ノ年十二月三十一日現在、何年度末ト記スルモノハ翌年三月三十一日現在、何年ト記スルモノハ其ノ年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル一曆年間、何日ト記スルモノハ其ノ日現在ノ意ナリ。

前數年ノ事項ヲ列記シタルモノハ本表ノ數字ト其ノ質ヲ同ウシ即チ本表現在數ナルトキハ比較數亦現在數、一年間又ハ一年度間ノ數ナルトキハ比較數亦一年間若ハ一年度間ノ數ナリ。

數位ハ千位百萬位ニ「,」小數アルトキハ一位ニ「.」ヲ附シ不詳ノモノハ「●●●」一位ニ滿タサルモノハ「0」全ク無キモノハ「—」ヲ填入セリ。

金錢ニ關スルモノハ概ネ四捨五入ノ法ヲ用ヒテ圓位ニ止メタリ。

昭和十二年 福井縣統計書目次

第一編 土地及戶口等

總 說..... 1

土 地

1 土地總段別..... 4
 2 官有地..... 4
 3 民有有租地地積及賃貸價格..... 4
 4 民有無租地..... 5
 5 年期地地積及賃貸價格..... 6

氣 象

6 測候所..... 6
 7 氣壓氣溫及濕度..... 7
 8 平均氣壓..... 7
 9 平均氣溫度..... 7
 10 平均濕度..... 8
 11 平均曇量..... 8
 12 降水日數及降水量..... 8
 13 降雪日數及期節..... 9
 14 快晴日數..... 9
 15 曇天日數..... 9
 16 暴風日數..... 9
 17 結霜日數..... 10
 18 最多風方位..... 10
 19 風ノ速度..... 10
 20 風ノ平均速度..... 11
 21 沿海及河川流域雨量..... 11
 22 地方暴風雨信號所..... 12
 23 暴風雨標位置..... 12
 24 測候用無線電信機..... 12
 25 地震計..... 12
 26 地震計ニ現ハレタル震動..... 13

戶 口

27 市町村別面積..... 13
 28 市郡別人口..... 14
 29 市町村別人口..... 15
 30 推計人口..... 18
 31 普通世帯及其ノ人口..... 19
 32 人口階級別市町村數及人口..... 19
 33 婚姻、離婚、出生、死産、死亡總覽(實數)..... 20

34 婚姻、離婚、出生、死産、死亡總覽(比例)..... 20
 35 月別婚姻、離婚、出生、死亡、死産..... 20
 36 種類別婚姻件數及離婚件數..... 21
 37 夫妻ノ年齢階級及婚姻前ニ於ケル縁事身分別婚姻..... 21
 38 夫妻相互ノ婚姻前ノ配偶關係(初婚、死別、離別)組合セヨリ見タル婚姻件數..... 21
 39 父又ハ母ノ職業ニ依リタル出生數及死亡者ノ職業ニ依リタル死亡數..... 22
 40 配偶關係別人口..... 22
 41 年齢及配偶關係別人口..... 23
 42 特殊年齢別人口(郡市別)..... 24
 43 胎兒ノ月數ニ依リ分テタル死産數..... 24
 44 年齢ニ依リ分テタル五歳未満死亡者數..... 25
 45 原因別死亡 (大分類)..... 26

交通及通信

46 官設鐵道線路及敷地..... 27
 47 官設鐵道運輸..... 28
 48 私設鐵道..... 29
 49 私設鐵道運輸..... 29
 50 郵 便..... 33
 51 電 報..... 34
 52 電信線路及線條..... 35
 53 電話加入者數..... 35
 54 市内電話線路及線條..... 36
 55 市外電話線路及線條..... 36
 56 電話料收入..... 36
 57 諸 車..... 37
 58 海岸延長及港灣..... 37
 59 港灣ノ狀況..... 37
 60 燈 臺..... 37
 61 浮 標..... 38
 62 船 舶..... 38
 63 港灣入港船舶ノ隻數及噸數..... 38
 64 敦賀浦蓋斯德間汽船乘客人員..... 39

土 功

65 水害員數..... 40
 66 水害損失價額..... 40

67	工事別土木費決算	40
68	工種別土木費決算	41

社寺及宗教

69	神社及神職	41
70	寺院及僧侶	42
71	各宗派別寺院	42

兵 事

72	壯丁教育程度種別	44
73	壯丁体格檢查	44
74	壯丁身長及體重最高最低	45
75	海軍志願兵	45
76	日本赤十字社員及年饌金	46
77	愛國婦人會	46

議 會

78	貴族院議員多額納稅議員互選者	47
79	衆議院議員選舉	49
80	縣會議員選舉	50
81	縣會議員選舉無效投票	51
82	縣會及縣參事會	51
83	福井市會議員選舉	51
84	敦賀市會議員選舉	51
85	福井市會及市參事會	52
86	敦賀市會及市參事會	52
87	町村會	52

官 公 吏

88	縣廳各部分課	52
89	休職官吏吏員職員	52
90	縣職員 (課別)	53
91	市吏員	55
92	町村吏員	56

財 政

93	縣市町村水利土功組合歲入歲出	56
94	直接稅負擔決算	57
95	國 稅	58
96	地 租	58
97	所 得 稅	60
98	相 續 稅	60
99	第三種所得稅種類別決定額	62
100	織物消費稅	62
101	營業收益稅	64
102	酒 造 稅	64
103	國稅滯納人員及金額	66

104	租稅外國庫收入	66
105	國庫支出縣經費	68
106	縣 歲 入	70
107	縣 歲 出	70
108	縣 稅	72
109	縣稅滯納處分	73
110	特別會計ニ關スル縣歲入歲出	74
111	福井市歲入	74
112	福井市歲出	75
113	福井市稅	76
114	敦賀市歲入	76
115	敦賀市歲出	76
116	敦賀市稅	77
117	福井市瓦斯事業費歲入	77
118	福井市瓦斯事業費歲出	78
119	福井市水道事業費歲入	78
120	福井市水道事業費歲出	78
121	町村歲入	80
122	町村歲出	82
123	町 村 稅	84
124	普通水利組合歲入	84
125	普通水利組合歲出	85
126	水害豫防組合歲入	86
127	水害豫防組合歲出	86
128	縣有財產ノ一	87
129	縣有財產ノ二	88
130	縣有財產ノ三	88
131	福井市基本財產	89
132	町村基本財產	89

其 他

133	篤行奇特者	89
134	瓦 斯	89
135	瓦斯製造高及消費高	90
136	瓦斯火口數及料金	90
137	令達公布件數	90
138	收受發送文書件數	90

總 說

位 置

本縣ハ北陸道ノ西南部ニ位シ南ハ北緯三十五度十八分四十五秒ニ始マリ北ハ北緯三十九度十六分三十八秒ニ終リ東ハ東經百三十六度四十六分三十秒ニ始マリ西ハ東經百三十四度二十七分十七秒ニ終ル。

北ハ石川縣ニ接シ東南ハ岐阜縣ニ接シ西南ハ京都府、滋賀縣ニ連リ北ハ日本海ニ面シ航路ニ晝夜ヲ隔テ遠ク浦鹽ト相對ス。

地 勢

越前ハ四面山ヲ繞ラシ中央ニ一大盆地ヲ包擁ス所謂越前平野ニシテ縣下最大ノ平地ナリ。

東北加賀白山ヨリ起レル山脈ハ別山ニ至リ岐レテ二脈ト爲リ重疊起伏シテ國境ヲ限ル。一ハ國ノ東南ヲ走り大日、油坂、龜帽子、荒島、冠嶽ノ諸峯ト爲リ極メテ急峻ナリ。一ハ北境ニ近ク國內ヲ西ニ走りテ經ケ嶽、鶯ヶ嶽、淨法寺、丈叢ノ諸山ト爲リ西北國道附近ニ至リテ漸ク高度ヲ減シ海ニ近ツク。國境山脈ノ最高點ハ二ノ峯ニシテ加賀飛騨ノ境ニ聳エ一千九百六十二米白山火山脈ニ屬シ本縣第一ノ高峯ナリ。又國ノ西方日本海ニ近ク蟠屈セル一脈アリテ國見、惣集、越路ノ諸山ト爲リ山脚海ニ迫リテ平地ヲ見ズ奇巖屹立シ激浪岩ヲ嘯ムノ地多ク北端餘脈盡クル所僅ニ砂岳ヲ形成ス。

河川ハ概ネ東南ノ山境ニ其ノ源ヲ發シ西北流シテ九頭龍、足羽、日野ノ三川ト爲リ後合シテ九頭龍ノ本流三國港ニ至リテ日本海ニ注グ。上流ハ千仞ノ溪谷ヲ奔リテ隨所ニ水力發電ノ原動力ヲ供給シ漸ク流ルルニ及ビテ流域一帶ヲ灌溉ス平坦部ハ所謂越前平野ニシテ土地肥沃ニシテ五穀豐穰ナリ。

若狹ハ越前ト其ノ趣ヲ異ニシ南方ニ三十三間山、百里ヶ嶽、三國峠、ハツ峯西方ニ青葉山等ノ峰嶽國境ヲ限リ北方ニ傾キテ海ニ至ル。從ツテ河川ノ大ナルモノ渺ク南川、北川ヲ其ノ主ナルモノトシ狹少ナル平地處々ニ點在スルノミニシテ水田ニ乏シク爲ニ養蠶ノ發達ヲ來スニ至レリ。

海岸線ノ總延長百九十八軒ニ達シ嶺北沿岸一帶ハ風曲ニ乏シク港灣ノ見ルベキモノナシ。之ニ反シテ嶺南四郡ノ沿岸ハ出入甚ダ多ク頗ル肢節ニ富ミ岬角參差トシテ複雜極リナキ形貌ヲ有ス越前岬ヨリ西方京都府經ケ岬ニ至ル一線以南ハ所謂若狹帯ニシテ古來新府、沈降、隆起、浸蝕、沖積等交々ノ影響ヲ受ケ地形上瀬戸内海、伊勢灣、淀川流域、近江盆地ト不離ノ關係ニ立ツモノナリ灣内更ニ敦賀、小濱ノ灣入アリ裏日本海運上幾多ノ將來ヲ有ス。

廣 袤

總面積四千二百六十四方軒餘ヲ有シ廣袤全國四十六府縣中第三十三位ニシテ山梨縣ニ比シ狹ク富山縣ニ比シ稍大ナリ。然レドモ山地三分ノ二ヲ占ムルヲ以テ廣袤ノ割合ニハ利用面積尠シ

土 地

本縣ノ土地總段別ハ二十三萬九千四百五十三町步、内官有地五千四百六十二町六段、民有地二十三萬三千九百九十町四段ナ

リ。民有租地ハ十八萬五千八百八十五町八段ニシテ約八割ニ當リ民有無租地及年期地ハ四萬八千八百四町六段ナリ。官有地ハ山林四千七百四十四町三段、公私立學校及官公署敷地七百十八町三段ナリ。無租地ハ保安林四萬二千五百八十二町八段、社寺地百五十五町一段、公私立學校及諸官公署敷地百二十四町二段、墳墓地百八十一町五段、池沼百六十二町三段、其ノ他千四百一町五段ナリ。年期地ハ總テ四千九百九十七町二段アリ。

氣 象

本縣ハ一方日本海ニ面シ他方山嶽ニ依リ圍レタル地勢ナルヲ以テ其ノ氣候ハ主ニ海上ヨリノ影響ニ依リ左右セラルル傾向ニ在リ尙濕度ノ如キニ至リテハ本邦中最タルモノニ屬シ冬季ハ積雪多ク各種産業ニ影響スル處多シ。

昭和十二年中ノ平均濕度ハ福井80%、敦賀76%ニシテ氣温ノ最高ハ七月ノ福井三七、八度、敦賀三六、二度、最低ハ一月ノ福井零下四、四度、敦賀零下九、六度ナリ。平均氣温ハ福井ニアリテハ一四度、敦賀ニアリテハ十四、六度ヲ示シタリ。

又降水日數ハ福井ニアリテハ二一六日、敦賀ニアリテハ二〇四日ニシテ雨天ハ殆ンド一年中三分ノ二ヲ占ム、之ヲ月別ニ見レバ福井ニアリテハ十二月ノ二十八日、敦賀ニアリテハ同月ノ二十八日最モ多ク二十八日ヲ示シ、福井ノ六月ノ九日、敦賀ノ八月ノ七日ヲ最少トス。

尙同年中ノ降雪期間ハ福井一一八日、敦賀一一三日、最深積雪ハ福井ニ在リテハ二尺六寸五分、敦賀ニ在リテハ二尺二寸七分ヲ示セリ。快晴日數ハ福井三十三日、敦賀三十五日、暴風日數福井二日、敦賀三十一日、結霜日數福井五十日、敦賀二十四日等ナリ。

戶 口

世 帯 及 人 口

昭和十年十月一日現在(國勢調査)本縣一市十一郡ノ世帯總數ハ十三萬三千五百二十四、總人口六十四萬六千六百五十九人ナリ。總人口中男三十一萬六千四百二十四人、女ハ三十三萬二千三百五十五人ニシテ女百人ニ付九十六人ニ當リ全國平均女百人ニ付男百一人ニ比シ男ノ割合少キハ纖維工業地タルノ故ナラン。而シテ之ヲ全國總人口六千九百二十五萬四千四百四十八人ニ比較スレバ0.93%ニ該リ府縣中第四十三位ヲ占ム。之ヲ既往ニ就キテ見ルニ大正九年ハ1.07%第四十三位、大正十四年ハ1.00%第四十四位、昭和五年ハ0.96%第四十四位ナルガ故ニ本縣人口ノ全國總人口ニ對スル割合ハ調査毎ニ遞減シタリ。

總人口六十四萬六千六百五十九人ヲ昭和五年ノ六十一萬八千六百四十四人ニ比スレバ人員ニ於テ二萬八千五百五十五人4.6%ノ増加ニシテ人口減少ヲ示シタル大正九年乃至大正十四年ノ五年間ニ比スレバ著シキ人口増加ト言フベキモ全國平均増加割合7.5%ニハ猶遠ク及バズ。

人 口 ノ 分 布

次ニ人口ノ縣内分布ヲ見ルニ七萬七千二百七十三人(11.6%)ハ福井市ニ其ノ他ハ郡部ニ在リ。各郡中人口ノ最モ多キハ坂

井郡ノ十萬三千二百一十一人(15.5%)ニシテ大野郡七萬九千八百五十一人(12.3%)今立郡ノ六萬三千三百七十七人(9.8%)丹生郡ノ五萬八千四百七十七人(9.0%)吉田郡四萬九千四百二十人(7.6%)之ニ亞ギ大飯郡ノ一萬七千五百六十人(2.7%)最モ少シ。

市郡ノ人口増減ヲ檢スルニ大正十四年乃至昭和五年ニ於テ丹生及大飯ノ二郡、昭和五年乃至昭和十年ニ於テ丹生、三方、遠敷及大飯ノ四郡ノ減少シタルヲ除ケバ他ハ何レモ兩期ヲ通ジ其ノ人口増加シタリ。

昭和五年乃至昭和十年ノ五箇年ニ於ケル人口増加ノ最モ大ナルハ福井市ノ八千七百五人ニシテ、吉田郡ノ七千八十四人、足羽郡ノ六千五百九十一人、大野郡ノ二千六百六十人、今立郡二千五百六十五人、敦賀郡ノ二千七百七十八人順次之ニ亞グ。然レドモ之ヲ増加割合ヨリ見ルトキハ足羽郡ノ17.3%最モ高ク以下吉田郡ノ16.7%福井市13.1%敦賀郡ノ5.1%今立郡ノ4.2%大野郡ノ3.5%等ノ順序トス。

人口ノ密度

本縣ノ總面積四千二百六十四、四八方軒ヲ以テ總人口六十四萬六千六百五十九人ヲ除ストキハ一方軒當百五十二人ト爲リ全國平均百八十一人ヨリ稍低シ市郡ノ人口密度ヲ檢スルニ福井市ハ一萬五千四百五十六人ヲ示シ、郡部ニ在リテハ吉田郡三百五十五人最モ高ク、足羽郡ノ二百八十七人、坂井郡ノ二百四十三人、敦賀郡ノ百八十八人、今立郡ノ百七十二人、丹生郡ノ百六十六人順次之ニ亞ギ大野郡ノ六十二人最モ低シ。

人口動態

昭和十二年申ノ婚姻ハ七千六百二十三件、離婚六百九件ナリ。出生ハ男一萬三千七百七十八人、女一萬二千二十一、計二萬五千九百九十九人ニ達シ男ハ女ヨリモ三百五十七人多ク生産シタリ。同年申死亡シタル者ハ男七千三百二十九人、女七千五百六十四人、計一萬四千八百九十三人ナルガ故ニ出生、死亡ノ差ハ五千五百六十六人ノ自然増加トナル。尙最近五ヶ年間ニ於ケル平均五千三百四十三人ノ増加ヲ示ス。

原因別死亡

昭和十二年申ニ於ケル總死亡者ハ一萬四千八百九十三人ニシテ之ノ原因別ニ示セバ最高ヲ占ムルハ消化器ノ疾患三千二百三十一人(21人7分)之ニ亞グ呼吸器ノ疾患二千三百三十七人(15人7分)傳染病及寄生蟲病二千八百八十五人(14人7分)神經系及感器器ノ疾患千九百四十人(13人0分)老衰千六百六十四人(7人8分)乳兒固有ノ疾患千二人(6人7分)泌尿生殖器ノ疾患六百七十三人(4人5分)血行器ノ疾患六百二十八人(4人2分)瘡其ノ他ノ腫瘍四百九十一人(3人3分)不明ノ診斷及不詳ノ原因四百四十九人(3人)外因死四百四十八人(3人)ハ其ノ最モ著シキモノナリ。

交通

通 路

交通ノ狀況ハ國道二路線、府縣道二百八路線此ノ總延長百八十九萬九千九百九十二米ニシテ面積ニ比シ少カラザルモ山地割合ニ多キ關係上其ノ一部ハ險路峻坂ト爲リ、或ハ幅員狹少ト爲ルヲ以テ毎年之ガ改良ニ多額ノ經費ヲ投ジツ、アリ。

鐵 道

鐵道ハ延長三百三十七軒ニ達シ、北陸本線、小濱線、三國線ノ外ニ私設鐵道七線アリ。更ニ目下建設中ニ屬スル越美線ノ開通ヲ見ルトキハ交通上裨益スル處大ナルベシ。

社 寺 及 宗 教

神 社 及 神 職

昭和十二年末本縣ノ神社總數ハ千六百六十九社、神職百九十四人アリ。内官幣大社一、官幣中社一、別格官幣社一、國幣中社二、國幣小社一、縣社二十六、郷社四十七、村社千二百七十三、無格社三百七十七社等アリ。

寺 院 及 僧 侶

本縣ノ宗教ハ佛教最モ盛ニシテ昭和十二年末ニ於ケル寺院總數ハ千六百六十九、僧 侶千五百九十一人ニ達シ寺院一ニ付世帯八十ノ割合ニ當ル。寺院ヲ宗派別ニ觀ルトキハ眞宗八百七十三最モ多ク、縣下寺院ノ半ヲ占メ之ニ亞グハ曹洞宗二百七十六、日蓮宗百四十、天台宗百十、淨土宗百五、臨濟宗八十眞言宗六十三、時宗二十、黃蘗宗二等ナリ。

官 公 吏

縣 職 員

昭和十三年八月一日現在ニ於ケル本縣職員ハ千七百八十人ニシテ其ノ俸給百九萬五千九百七十四圓トナル。内勅任一人、奏人二十人、同待遇者六十四人、判任百九十六人、同待遇者八百四人、縣吏員三百二十人、雇傭員二百九十六人、囑託七十九人等ナリ。

市 吏 員

昭和十二年末現在ニ於テ市長、助役、收入役各二人、主事三人、技師二人、書記八十二人、技手十九人、書記補十五人、事務雇四十四人、其ノ他六人、總數百七十七人ニシテ之ノ内名譽職市長一人ヲ除ク俸給總額十一萬九百三十八圓トナルモ此ノ外名譽職ニ屬スル常設委員五人、區長九十四人、區長代理者九十四人ヲ併セ百九十四人アリ。

町 村 吏 員

昭和十二年末現在ニ於テ町村長百六十三人、助役百六十三人收入役百五十二人、區長二千二人、同代理者千九百七十二人書記六百五十一人、技手及技術員三十五人、事務雇五十八人、書記補十九人、常設委員九百六十五人、總數六千七百七十二人トナリ名譽職者ノ報酬ヲ除キタル有給吏員ノ給料年額ハ三十四萬千二百二十四圓トナル。

財 政

縣

縣財政ハ明治十四年即チ置縣當時ニ在テハ僅カニ二十八萬三千餘圓ニ過ギザリシガ日清戰役以來事業ノ勃興ト法令ノ結果ニ依ル等漸ク經濟ノ膨脹ヲ來タシ明治二十九年ニ至リテ約三倍ニ上リ加フルニ水害復舊工事ニ依ル縣債償還及九頭龍川改修工事ニ對スル支出等ニ依リ年々縣費ノ増嵩ヲ來シタリ。茲ニ於テ縣民ノ負擔輕減ヲ圖ル必要ニ迫リ明治三十五年及同三十七年度ノ兩回ニ亘リ極力財政ノ整理ヲ斷行シタルモ戰後ノ經營ト時運ノ進歩トニ伴ヒ益々財政ノ膨脹ヲ來タスニ至レリ、加フルニ其ノ後郡制ノ廢止ニ依リ自然事業ノ増加ヲ來タシ縣費ハ愈々膨脹シタルヲ以テ大正十二年政府ノ旨ヲ体シ一大整理方針ヲ樹テ事業費事務費ヲ通テ極力整理緊縮ヲ敢行シ爾來其ノ方針ヲ以テ進ミタルモ法令ニ依ルモノ其ノ他縣民ノ福利増進上已ムヲ得ザルモノ等アルタメ昭和十二年度ノ決算ハ七百二十二萬四千五百五十九圓ニ上ルニ至レリ。之ヲ前年度ノ決算ニ比スレバ十二萬八千十三圓ヲ減ジ更ニ十年前ノ昭和二年度決算五百八十四萬七千七百四十五圓ニ比シ百三十七萬六千八百十四圓ノ増嵩ヲ來セリ。

市 町 村

市町村ノ財政狀況ヲ觀ルニ昭和十二年度ニ於テ市費百八十七萬八千五百五十五圓、町村費五百九十五萬三千六十九圓何レモ豫算ニシテ之ヲ市町村制實施ノ翌年タル明治二十三年ニ比スレバ市町村費ヲ通テ實ニ約二十四倍ノ多キニ達セリ。縣ハ不斷銳意緊縮ノ方針ヲ以テ之ヲ卒フル所アリシモ社會進展ニ伴ヒ教育、土木、産業、其ノ他ノ施設ニ迫ラルルノミナラス支那事變ノ影響ヲ受ケ自然經費ノ膨脹ヲ餘儀ナカラシメタリ。

諸 稅 及 負 擔

昭和十二年度本縣ニ於ケル租稅負擔ノ狀況ヲ見ルニ直接國稅三百六十五萬九百七十一圓、縣稅二百六十五萬七百五十三圓、市町村稅三百九十二萬八千七百七十一圓ニシテ之ナー世帶當ニ觀ルトキハ直接國稅二十七圓五十八錢、縣稅二十圓三錢、市町村稅二十九圓六十八錢トナル。

港 灣

敦 賀 港

本港ハ日本海沿岸ニ於ケル主要港灣ニシテ灣内廣濶水極メテ深ク且ツ暗礁砂洲等ノ障害物ナキ爲大船巨船ト雖モ運航自在且緊要安全ナリ政府ハ明治十四年工費十萬圓ヲ投ジテ金ヶ崎波止堤ノ築設ニ着手シ翌十五年其ノ工ヲ竣ヘ次テ明治二十九年之ヲ特別輸出港ニ指定シ同三十二年開港令公布セラルルヤ其ノ一ニモ亦之ヲ加ヘタリ其ノ後西比利亞鐵道ノ全通スルニ及ビ政府ハ本港修築ノ必要ヲ認メ明治四十二年四箇年繼續事業トシテ工費八十萬圓ノ第一期修築工事ヲ起シ突堤ノ延長棧橋ノ築設、荷揚場ノ築造、浮漂ノ設置ヲ竣ヘタリ。更ニ第二期修築工事トシテ大正十年度ヨリ直轄工事ヲ起シ爾來十箇年ノ星霜ト三百六十二萬餘圓ノ巨費ヲ投ジテ銳意之ガ修築ヲ行ヒ昭和七年三月其ノ竣工ヲ見ルニ至レリ。次ニ歐洲大戰中非常ナル發展ヲ遂ゲタル我對外貿易モ同戰後ノ財界變動ニ因リ漸次衰退ヲ來シ其ノ後甚シキ激減ヲ示スニ至レリ。而シテ昭和十二年中當港ヨリノ移出

八萬九百五十九噸、價額四百五十八萬五千四百七十三圓、移入ハ三十四萬二百四十八噸此ノ價額千四百一萬四千六百四圓ニシテ移出ノ主ナルモノハ蔬菜及果實、雜貨、藥製品並ニ布帛及同製品トズ果實及布帛製品ハ主トシテ本縣產ノモノノミニシテ雜貨ハ京阪地方ヨリ何レモ鐵道ニテ輸送シ來リ北海道（函館、小樽）北鮮（元山、城津、清津、雄基）露領亞細亞、中華民國及滿洲方面ニ、雜貨及藥製品ハ兵庫、滋賀、三重ノ各縣ヨリ產スルモノト縣內產トヲ併セ北海道、北鮮地方ニ移出セララル。移入ノ主ナルモノノ内石炭ハ北海道、九州地方ヨリ移入シ多ク之ヲ鐵道用炭トシテ其ノ他ハ本縣及滋賀縣下ノ工業用炭トシテ消費スルモノトス。尙穀類、鮮魚、魚藻類ハ北海道、朝鮮方面ヨリ移入シ縣內ハ勿論滋賀、京阪神及名古屋中央線一圓ニ移出セララルル狀況ニ在リ。